

◇現代社会と青年◇

着物で靖国神社に

参拝する大学生

（株式会社キャリアコンサルティング
代表取締役社長）

むろだて
いさお
室館 勲



十二月で十七周年を迎えた株式会社キャリアコンサルティング。弊社でリーダーシップを学んでいる学生や社会人を連れて、毎年、靖国神社に初詣に出かけます。今年の初詣では八百人で写真を撮影し、昇殿参拝をおこないました。

新年早々、これだけの人数が集まることは中々ありませんから、初めて参加した大学二年生の女性メンバーさんは、その人数に圧倒されました。

周りを見渡すと、先輩の女子大生たちがきれいなお着物を着て参加しています。「初詣でお着物って、キレイだな、おしゃれだな」。そう思ったそうです。しかし彼女は、先輩が着物を着ている理由を聞いて驚きます。先輩はこう言いました。

「私が着物を着ているのは、初詣という理由もあります。でも一番の理由は違うんですよ。それは『御霊鎮め（みたましずめ）』と言って、靖国神社に祀られ

ている二百四十六万六千余柱のご英霊のために着物を着て、参拝に来たのです。

過去、多くの兵隊さんが日本を護るために戦ってくれました。そして、実に多くの兵隊さんが亡くなりました。年齢は、十代や二十代前半の方も多いそうです。そういった若い兵隊さんの中には、残念ながら女性を知らずして、この世を旅立たれた方も多いと聞きます。そこで、私たちがきれいに着飾り、ご英霊に見ていただきたいと思って、お着物で参加しているのです。『少しでもご英霊が安らかに生まれますように』という『御霊鎮め』の想いを持って着物を着ているのです」

先輩の言葉に、彼女は感動します。「ファッションやおしゃれは、自分のためにするもの。身だしなみは人のためにするもの」という価値観に、新たに深い考え方が追加された瞬間でした。先輩、カッコいいな、素敵だなと思い、今回は自分もお着物で靖国神社に参拝に行こうと決めたそうです。

勇気あるご英霊の方々が、日本を護るために戦ってくれた大東亜戦争から七十五年。ご遺族も高齢になり、どう受け継がれるのかと心配する声も聞きます。しかし、令和を生きる大学生たちにも、こうして小さなタスキが確実に受け継がれています。弊社が続けている靖国神社参拝。多方面から様々な声もありますが、日本人として大切なこととして、今後も靖国神社参拝を続けていきたいと思っています。